



環境かわら版

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

令和2年8月号 (第291号)

特集

2019年度ダイオキシン類調査結果等



「あいち環境学習プラザ」施設公開セレモニーを開催しました (P3)



豊田市立五ヶ丘東小学校 (ビオトープ活動)
「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」
を選定しました (P4)



エコアクションを
はじめよう！つづけよう！つなげよう！

<http://aichi-eco.com>





「2019年度ダイオキシン類調査結果等」についてお知らせします



愛知県は、ダイオキシン類対策特別措置法第27条第1項に基づき実施した県内の環境調査結果及び同法第28条第3項に基づき法対象事業者から報告された事業者による測定結果を取りまとめました。

1 環境調査結果

県は、国土交通省中部地方整備局、4政令市（名古屋、豊橋、岡崎及び豊田）及びその他13市町とともに、大気環境、水環境（水質、底質、地下水及び水生生物（魚類））及び土壌環境について調査を実施しました。

2019年度の結果概要は、下表のとおりです。

環境調査結果

調査項目	地点数	濃度範囲	環境基準	単位
大気	36	0.0071～0.053	0.6以下	pg-TEQ/m ³
水質	45	0.040～1.7	1以下	pg-TEQ/L
底質	41	0.080～48	150以下	pg-TEQ/g
地下水	15	0.021～0.098	1以下	pg-TEQ/L
水生生物（魚類）	4	0.19～0.80	—	pg-TEQ/g
土壌	15	0.0017～2.7	1,000以下	pg-TEQ/g

（注1）濃度範囲は調査地点ごとの年間平均値の最小値及び最大値

（注2）環境基準（大気、水質、地下水）は年間平均

（注3）TEQとは、ダイオキシン類は異性体が多く、毒性は異性体ごとに異なるため、異性体の中で最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの量に換算した値として表したもの。

（注4）水生生物（魚類）については、環境基準が定められていない。

大気、底質、地下水及び土壌については、全ての地点で環境基準を達成しました。水質については、3地点を除き環境基準を達成しました。

また、水生生物（魚類）については、国が1999年度に行った全国一斉調査結果（0.032～33 pg-TEQ/g）の範囲内でした。

2 事業者による測定・報告状況（4政令市分を除く。）

法対象事業者は、法に基づき、毎年1回以上の排出ガス、排水及びばいじん等に含まれるダイオキ

シン類濃度の測定を行い、その結果を知事に報告することが義務付けられています。

2019年度の測定・報告状況の概要は、下表のとおりです。

事業者による測定・報告状況

測定項目	報告済施設数		未報告施設数
		基準不適合	
排出ガス	308	4	0
排水	23	0	0
ばいじん及び燃え殻	163	0	1

（注1）報告済施設数は、2019年度末の数を示す（ただし、報告後廃止した施設も含む。）。

（注2）排水の施設数欄は、事業場数を示す。

（注3）未報告施設数は、2019年度末の時点で稼働している施設数のうち、未報告の施設数を示す。

排出ガスについては308施設、排水については23事業場から報告があり、4施設の排出ガスを除き排出基準に適合していました。排出基準を超過した施設については、改善対策の実施を指導しました。

また、ばいじん及び燃え殻については163施設から報告があり、処理基準に適合しない施設はありませんでした。

3 今後の対応

ダイオキシン類による汚染の状況を監視するため、法に基づき、引き続き環境調査を実施していきます。

また、今後も法対象事業場の立入検査を継続し、排出基準、処理基準などの遵守状況を把握するとともに、排出削減を指導していきます。

詳細はWebページをご覧ください。

([https://www.pref.aichi.jp/](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000007021.html)

[soshiki/kankyokatsudo/0000007021.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000007021.html))



（環境活動推進課 環境リスク対策グループ
電話 052-954-6212（ダイヤルイン））

「あいち環境学習プラザ」施設公開セレモニーを開催しました



「あいち環境学習プラザ」は、小中学校の社会見学にも対応した新たな愛知県の環境学習施設として、本年4月1日に県環境調査センター(名古屋市北区)1階にリニューアルオープンしました。

この施設をより多くの県民の方々に知っていただくため、地元学区の小中学校長や小学生の皆さんをお招きし、夏休みが始まる7月21日に「あいち環境学習プラザ」施設公開セレモニーを開催しました。

大村知事からは、施設や展示の特長の紹介とともに、新たな環境学習の場として活用し、「環境首都あいち」の実現に向けた取組をさらに進めていきたいと挨拶がありました。



施設見学会の様子

また、神戸県議会議長からは「あいち環境学習プラザ」が「行動する人づくり」に貢献すること

を期待しているとのことご祝辞を頂きました。

セレモニーの後、来賓の方には施設見学会を行うとともに、小学生の皆さんにはプラスチックごみをテーマした環境講座やハンズオン展示、タブレット学習を体験していただきました。



環境講座の様子

「あいち環境学習プラザ」は、どなたでも無料で環境について学ぶことができる施設です。皆様のご利用をお待ちしておりますので、ぜひお越しください。施設や開催している講座についての詳細はWebページをご覧ください。

(<http://kankyo.joho.pref.aichi.jp/plaza/>)



環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

「愛知県気候変動適応計画」を改定しました



地球温暖化に対する取組として、温室効果ガスの排出の抑制等を行う「緩和策」だけでなく、既に現れている影響や中長期的に避けられない影響に対する「適応策」についても進めることが求められています。

愛知県では、2019年2月に「あいち地球温暖化防止戦略2030」を「愛知県気候変動適応計画」と位置付けていますが、この度、本県における「適応策」の更なる充実を目的として、その内容を見直しました。

【本計画の改定ポイント】

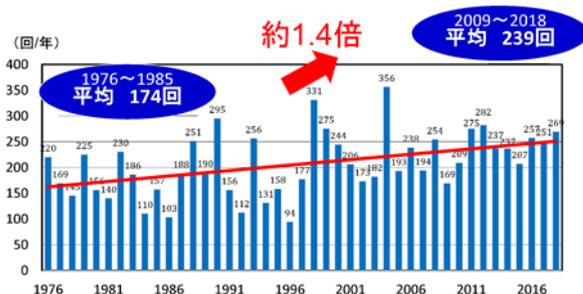
- 県が重視すべき気候変動影響の分野を選定し、具体的な「適応策」を示したこと。
- 愛知県気候変動適応センター(2019年3月設置)を、気候変動適応法に基づく「地域気候変動適応センター」として位置付けたこと。

詳細はWebページをご覧ください。(https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/38592.html)



【気候変動による影響(例)】

1時間降水量50mm以上の年間発生回数(全国)



【適応策(例)】



みずから守るプログラム(大雨行動訓練)

地球温暖化対策課 温暖化対策グループ
電話 052-954-6242 (ダイヤルイン)



「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」 を選定しました



2020年は「愛知目標」の目標年及び「国連生物多様性の10年(2011年～2020年)」の最終年にあたり
ます。愛知県と名古屋市は、「愛知目標」の達成に向
けた様々な取組を総括し、更なる取組の促進につな
げるため、COP10以降に県内で行われた生物多様性
の保全や持続可能な利用等に関する取組事例を募集
しました。

その結果、数多くの団体から延べ160件(市民団
体・NPO 90件、企業 34件、教育機関 14件、行政・
その他 22件)の応募が寄せられました。選定委員
会により、事業の趣旨、波及効果、創造性、地域性、
継続性・発展性、規模、連携、専門性、実績といっ
た観点から審査を行い、優れた事例として「ベスト
プラクティス」20件、「グッドプラクティス」123
件を選定しました。



環境ボランティアサークル亀の子隊(海的环境学習)



豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道
推進協議会(葦毛湿原の植生回復)

選定委員からは、「長期間にわたって継続された活
動で、人材育成まで実施されている」、「この地域で
NPOをはじめとした様々な活動がしっかりと進めら
れている」などの講評がありました。

選定事例については、秋までに冊子に取りまとめ、
その取組内容や成果を広く紹介していきます。

ベストプラクティス選定団体一覧 (50音順)

団体名(主な活動場所)
愛知県立愛知商業高等学校ユネスコクラブ(名古屋市東区)
愛知製鋼(株)(東海市)
豊田市立五ヶ丘東小学校(豊田市)
命をつなぐPROJECT(東海市、知多市)
特定非営利活動法人表浜ネットワーク(豊橋市)
(株)加藤建設(蟹江町)
環境ボランティアサークル亀の子隊(田原市)
(株)三五(名古屋市熱田区)
島を美しくつくる会(西尾市)
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト(幸田町)
トヨタ車体(株)(刈谷市)
豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会(豊橋市)
なごや生物多様性保全活動協議会(名古屋市全域)
愛知県立南陽高等学校(名古屋市港区)
ネイチャークラブ東海(長久手市)
農業文化園・戸田川緑地 指定管理者 チーム YMO (公益財団法人名古屋市みどりの協会、(株)山田組、 (株)オオバ)(名古屋市港区)
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会(名古屋市港区)
特定非営利活動法人藤前干潟を守る会(名古屋市港区)
山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ(名古屋市瑞穂区)
(株)山田組(名古屋市守山区)

取組についての詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/bestpractice.html>)



〔自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475 (ダイヤルイン)〕

1 8月の天候の見通しと変化

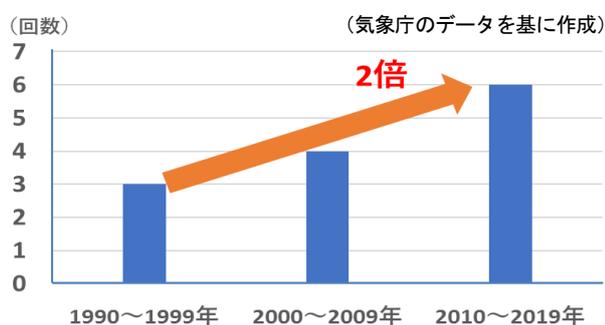
名古屋地方気象台の発表によると、今年の8月は平年よりも晴れる日が多く、気温も高い予想となっています。

近年、名古屋では最高気温40℃以上が観測されるなど、酷暑が猛威を振るっています。1891年から2018年までの名古屋の観測データを見ると、夏(6～8月)の日平均気温は100年あたり1.9℃上昇している傾向にあります。

2 短時間強雨の増加と影響

気温が上がると、大気の水蒸気量が増加します。これは短時間強雨の増加要因の一つと考えられており、名古屋の観測地点では、8月に発生した1時間に30mm以上の短時間強雨の発生回数は、1990年代と2010年代を比較すると2倍に増加しています。

1時間降水量30mm以上の発生回数の経年変化(名古屋・8月)



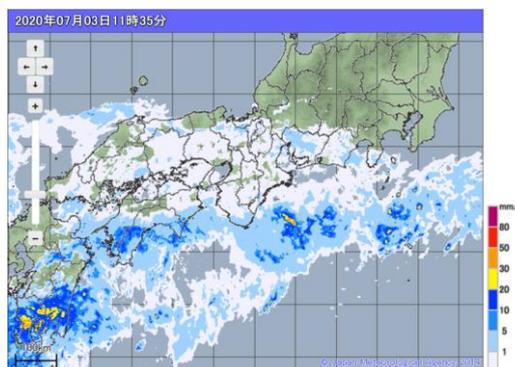
短時間強雨は、降り始めてから短い時間で川の増水を引き起こす恐れがあり、注意が必要です。特に、上流側で強雨が降った場合、下流側で雨が降ってなくても川が急に増水することがあり、逃げ遅れて水難事故に遭ってしまう危険性があります。

3 短時間強雨に対する適応策

短時間強雨は、発生場所や時間をあらかじめ予測することが困難です。そのため、大気の状態が不安定な時には、精度が高いリアルタイムの降水情報で、自分がいる場所の危険度を確認することが重要です。

気象庁のWebページでは、「高解像度降水ナウキャスト」が公開されています。これは、地図上に降水の分布と強度が表示されるもので、5分ごとにリア

ルタイムで更新されます。また、1時間先までの予報も見ることができ、大雨や雷時には防災情報としての価値が高くなっています。



高解像度降水ナウキャスト(気象庁Webページより)

このほか、民間気象情報サイトでも同様の情報入手することができ、スマートフォンで簡単に確認できるアプリもあります。

あらかじめ使いやすいものを探しておき、活用してみてください。

「高解像度降水ナウキャストWebページ」

(<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/index.html>)



4 「気候危機」への対応

環境省が発行した「令和2年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」では、近年の気象災害の激甚化は地球温暖化が一因とされ、今後も更なる頻発化・激甚化が予測されていることを取り上げ、「気候危機」という言葉が初めて使われました。この危機に対応していくため、自治体、県民及び事業者等が一丸となって、温室効果ガスの排出を抑制する緩和策と気候変動への適応策に取り組んでいく必要があります。

愛知県では、適応策の更なる充実を図るため、7月に気候変動適応計画を改定しました(P.3参照)。この計画に基づき、当センターにおいても、皆さんの適応への取組が進むように今後も情報提供等を積極的に行っていきます。

環境調査センター 企画情報部
(愛知県気候変動適応センター)
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)



高校生が専門家等の支援を受けながら、地域の環境問題について調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成する「あいちの未来クリエイト部」の活動が2017年度から行われています。6月号から3回にわたり、昨年度参加した3グループが作成した教材を紹介します。

最終回となる今回は、「名古屋市立工芸高等学校 防災チーム」の皆さんが作成した教材を紹介します。

名古屋市立工芸高等学校 防災チームの皆さんは、防災・減災の視点で、「災害とは何か」、「環境問題と災害との関係とは」、「今の自分達に何ができるか」を知るために、専門家とのディスカッションや防災対策現場の見学などの調査・研究を行いました。その調査結果から人間社会・環境・災害の関係性を整理し、そこから分かったことを伝えるために2つの教材を作成しました。

1つ目の教材は、災害の被害を小さくするために、災害について詳しく知ってほしいと考えて作ったバランスゲーム「環境くずれ〜」です。ゲームを通

して、災害の危険性や災害時の対応方法、災害が環境に及ぼす影響を学ぶことができます。

2つ目の教材は、生き物の視点から防災を捉え、生き物が暮らす環境と防災対策の関係性を理解してほしいと考えて作ったパズル「防災くみたて〜」です。パズルを通して、防災対策が豊かな自然を減らしていることを実感し、環境と防災の両立について考えることができます。

これらの教材を用いることで、災害そのものや人間社会・環境・災害の関係性について理解を深め、今の自分達にできることを考えることができます。



環境くずれ〜



防災くみたて〜

あいちの未来クリエイト部では他にも様々な教材を作成しています。教材は、全て貸出しを行っていますので、ぜひご活用ください。教材の内容や貸出方法の詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/program.html>)



（環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)）

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
令和2年8月3日発行(第291号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
電話 052-908-5112(ダイヤルイン)

編集後記

8月になり、暑い日が続いています。家庭でもできる暑さ対策として、緑のカーテンがあります。緑のカーテンは暑さを軽減するだけでなく、エアコン等の使用が減ることでCO₂排出量を削減する効果も期待できます。また、植物を育てる楽しみを感じることができる、緑が増えて空間に「安らぎ」や「潤い」を与えるといった点でもお勧めです。(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境局Webページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、今月号及びバックナンバーをカラーでご覧いただけます。ページは右のQRコードからアクセスできます。

この記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いします。

